

お忙しくても、約2分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

自由貿易が成り立つユートピアなどない 日覺 昭廣 (東レ社長)

1. 僕はもともと、自由貿易なんていうのはあり得ないと思っています。グローバルスタンダードとか、(世界を一体化した共同体とみなす) グローバリゼーションが成り立つユートピアなどないと。グローバル化と国際化は違います。国際化は国が違うことを前提に、国の条件の違いを全部考えた上で関税などの各国間の交易条件を決めていく世界です。ところがあるとき、全ての国境をなくして「フリー、フリー」といいます「グローバル化」が推進されるようになった。
2. でも、そんな国益が流出することをしたら絶対に国が持たないです。それぞれ、保有している資源も気候も民族もみんな違います。そうした無理がひずみとなって、米中貿易摩擦や保護主義といった形でいよいよ表面化しただけじゃないですか。だから僕は、コロナ終息後は再度、各国が交易貿易について真剣に考える流れになると思います。
3. グローバル化の揺り戻しにどう対応するかというと、これまで進めてきた「地産地消」を極めることに尽きます。交易条件は為替も含めて常に変わるし、国のリーダーが代わっても変わる。そうした変化にその都度、大きく左右されることがないようにするには、地産地消の考え方を基に世界中に拠点を持つしかないのです。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2020年5月30日号)

経営者のための危機管理

もがき続けるパナソニック

1. 巨艦パナソニックが長引く停滞から抜け出せずにもがいている。そこを襲ったのがコロナ禍だ。2020年3月期の連結業績は売上高が前期比6%減の7兆4906億円、営業利益が同29%減の2938億円と大幅な減収減益となった。今期の業績予想は開示していないが、減収減益が続くとみられる。
2. パナの業績はコロナ危機前から苦しい。売上高は長く7兆~8兆円と横ばいで、営業利益は4%を下回る。同じ電機業界では構造改革に道筋をつけたソニーが10%超、日立製作所も8%近い数値を出す中、パナは成長モデルへの転換がひとき遅れている。

(参考:「週刊東洋経済」:2020年6月20日号)

ワンポイント経営アドバイス

100年企業は資金繰りに強い

1. 日本は創業100年以上の企業が3万社以上あり、世界一の長寿企業大国と言える。長寿企業を研究している一般社団法人、100年経営研究機構が5月、創業100年を超える企業の経営者にメールで調査し95社が回答した。業種は製造が4割、小売りが2割を占めた。社員数と売上高は中央値がそれぞれ30人、6億円と大半が中小企業となっている。
2. 新型コロナに伴う経営への影響について40%が「売上高が5割以上減少」と回答した。地域に根差して比較的安定した顧客基盤を持つ老舗も、外出自粛で経営に打撃を受けている。「1割~5割未満の減少」も34.7%となった。一方、資金繰りに苦しむ企業は少数だった。「現在の資金繰りで会社をどの程度の期間もたせられるか」との問いに27.2%が2年以上、32.6%が1年と答えた。6カ月も含めると8割の企業が当面の資金繰りにめどをつけた。

(参考:「日経ビジネス」2020年6月1日号)

古典に学ぶ

意志の鍛錬が足らぬ

(解説) しかるにとかく人心には変態を生じ勝ちのもので、常時は「かくあるべし」「かくすべし」と堅く決心していた者も、急転して知らず知らずみずから自己の本心を誘惑し平素の心事とまったく別処にこれを誘うような結果をもたらすごときは、常時における精神修養に欠くところがあり、意志の鍛錬が足らぬより生ずることである。

(参考: 洪沢栄一「論語と算盤」: 国書刊行会)